

授業科目	インターンシップ 【SB2】		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期		必修・選択区分	2年 / 必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	60時間
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0			
	レポート	80			
	小テスト	0			
	提出物	20			
その他	0				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	事前学習			
	2	事前学習			
	3	事前学習			
	4	事前学習			
	5	事前学習			
	6	事前学習			
	7	企業実習			
	8	企業実習			
	9	企業実習			
	10	企業実習			
	11	企業実習			
	12	企業実習			
	13	企業実習			
	14	企業実習			
15	企業実習				

授業科目	カレッジイベント〔健康2〕	担当教員	喜多 奎介		
対象年次・学期	2年・集中	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	イベントを楽しく成功させる為の方法をディスカッションを通じ企画する事を目的とする。				
到達目標	誰もが楽しめるイベントを目指す。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料を配布。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60% (受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%)		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	20			
その他	60				
履修上の留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。、人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	カレッジイベント内容	イベントの内容説明		
	2	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	3	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	4	イベント実施	スポーツ大会		
	5	振り返り	レポート作成、提出		
	6	カレッジイベント内容	イベントの内容説明		
	7	役割分担	執行部、委員、種目担当、種目参加者の決定		
	8	リハーサル	各種目のルール、及び実践確認		
	9	イベント実施	スポーツフェスティバル		
	10	振り返り	レポート作成、提出		
	11	カレッジイベント内容	イベントの内容説明		
	12	役割分担	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者の決定		
	13	リハーサル	執行部、委員、イベント参加者、展示担当者 当日準備		
	14	イベント実施	学園祭		
15	振り返り	レポート作成、提出			

授業科目	コミュニケーション〔健康2〕	担当教員	喜多 奎介		
対象年次・学期	2年・集中	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的	1年次からの応用として、コミュニケーションを通じて、課題克服への積極的挑戦から自信に繋げる。				
到達目標	自主的に話題性をもって、人に関わり、立ち位置を確立できるようになる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて、資料を配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート 20% 提出物 20% その他 60% (受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 30%)		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	20			
その他	60				
履修上の留意事項	プリント・視聴覚機器等を活用しながら進めていきます。人との信頼関係を築くためのツールとして『コミュニケーション』はとても大切です。社会人に向けての大切な要素を学ぶ期間として、真剣に自分と向き合ってみましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	就職活動に向けて	履歴書の記入方法		
	2	就職活動に向けて	自己分析 自分の強み、弱さ、今後どのように成長していくか、どのような職業人でありたいか		
	3	就職活動に向けて	業界研究 進みたい分野における調査		
	4	就職活動に向けて	就職情報サイトの利用方法		
	5	面接試験に向けて	心構え、様々な面接試験について		
	6	面接試験に向けて	入退室、面接試験体験		
	7	面接試験に向けて	入退室、面接試験体験		
	8	一般常識	漢字(読み・書き)		
	9	一般常識	丁寧語、敬語		
	10	一般常識	挨拶、接遇		
	11	一般常識	マナー、一般常識(応用)		
	12	一般常識	ペア対話、グループ対話		
	13	まとめ	確認テスト(読み・書き・丁寧語・敬語)		
	14	まとめ	確認テスト(挨拶・接遇)		
15	まとめ	確認テスト(マナー・一般常識応用)			

授業科目	ジュニアスポーツ指導の基礎 〔健康2〕		担当教員	今北 雄太	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	選択(PH) / 必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	子どもスポーツの指導者としての基礎を学びます。各年齢で行うべき運動とは何か？子どものやる気を引き出し、運動能力を高めるコミュニケーション方法や指導方法を学びます。ジュニアスポーツ指導員の合格を目指します。				
到達目標	今日の子どもの現状、発育発達期の身体的・心理的特徴を理解し説明する事が出来る。				
テキスト・参考図書等	公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テストの結果および提出物の内容、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	20			
その他	30				
履修上の留意事項	教本やワークブックを中心に授業展開します。小テストを行います。ノートを使いますので用意してください。ジュニアスポーツ指導員資格の出題範囲にもなっています。毎時間きっちり楽しみながら勉強しましょう！！				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	第1章 概論	子どもにおける運動、スポーツの意義・価値 子どもを取り巻く環境、体力の現状と課題		
	2	第1章 概論	子どもの身体活動ガイドライン/アクティブチャイルドプログラム		
	3	第1章 概論	子どものスポーツ活動の現状と課題/発育発達期の遅速と競技成績/ジュニアスポーツ指導員の役割		
	4	第2章 コーチング	子どもスポーツ/コミュニケーションスキル/良い指導者としての観点		
	5	第2章 コーチング	ジュニア期のコーチングの目指すもの/指導の留意点		
	6	第2章 コーチング	発達に応じたコーチング/プログラム作成時のポイント		
	7	第2章 コーチング	安全管理上の配慮事項/コーチングの実践事例/ケーススタディ		
	8	第3章 体力	発育期の体格と体力/からだ(形態)の発育・発達		
	9	第3章 体力	運動能力(機能)の発育・発達/体力の測定と評価		
	10	第4章 動きの発達	発育期(幼児・児童・思春期以降)における動きの発達/動きの獲得		
	11	第4章 動きの発達	発達特性と個人差/動きの質的評価		
	12	第4章 動きの発達	動きの評価から指導へ/指導への応用		
	13	第5章 心理	運動能力の構成/こころの発達		
	14	第5章 心理	子どもの心理的特徴/心理的アプローチ		
15	第5章 心理	子ども達のストレスマネジメント			

授業科目	ジュニアスポーツ指導の実際 〔健康2〕		担当教員	今北 雄太	
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	選択(PH) / 必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	<p>「スポーツ」を多角的視野から学ぶことにより、ジュニアスポーツ指導者の役割について理解し、ジュニアスポーツにおける指導ができる力を養う。 子どもたちの将来に良い影響を与える運動指導の在り方とは何かを理解する。 ジュニアスポーツ指導員資格の取得を目指す。</p>				
到達目標	ジュニア期の特徴とスポーツ指導者の役割について理解し、適切な運動プログラムを作成し実際に指導することが出来る。				
テキスト・参考図書等	公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内で課す提出物(課題・指導案等)や小テスト(知識確認・指導実践等)の結果およびその他(出席状況、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	40			
	提出物	40			
その他	20				
履修上の留意事項	<p>教本やワークブックを中心に授業展開します。グループワークを重ね指導方法について理解を深めていきます。その中での成果物を評価していきます。また指導実践を行い、その内容を小テストとして評価します。毎時間楽しみながら実践力を身につけていきましょう！！</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	第6章 栄養	成長期における食事のあり方 / ジュニアスポーツにおける食事の意義		
	2	第6章 栄養	栄養摂取の過不足で起こる問題とその予防 / 栄養障害 / 熱中症		
	3	第6章 栄養	スポーツ食育の勧め方 / 水分補給		
	4	第7章 スポーツ医学	からだの構造と成長発達		
	5	第7章 スポーツ医学	スポーツと内科的障害 / スポーツによる外障と障害		
	6	第7章 スポーツ医学	スポーツ外傷・障害予防への取り組み		
	7	第8章 女性とスポーツ	女性の身体的・体力的特徴		
	8	第8章 女性とスポーツ	女性において起こりやすい諸問題 / 摂食障害 / 貧血		
	9	第8章 女性とスポーツ	月経とコンディショニング		
	10	実技編 運動遊び・スポーツ	発達段階に応じた運動遊び・スポーツの選択		
	11	実技編 運動遊び・スポーツ	スポーツ指導における運動遊びの活用		
	12	実技編 運動遊び・スポーツ	アイスブレイクの必要性		
	13	実技編 運動遊び・スポーツ	運動遊びをアレンジする必要性		
	14	指導プログラム作成と実践	プログラムを作成し実践する		
15	指導プログラム作成と実践	プログラムを作成し実践する			

授業科目	ジュニアスポーツ指導員対策 〔健康2〕	担当教員	今北 雄太		
対象年次・学期	2年・集中	必修・選択区分	必修/選択 (TR)	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的	ジュニアスポーツ指導員と必要な知識(発育発達、体力、心理、栄養、医学、性差)を理解し、検定合格を目指す。				
到達目標	子どもの発育発達段階に沿った運動プログラムを作成し指導実践できる。				
テキスト・参考図書等	公認ジュニアスポーツ指導員専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70	模擬試験の他、提出物、受講姿勢等で総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	10			
その他	20				
履修上の留意事項	ジュニアスポーツ指導員は子ども達にとって憧れの存在です！運動技能はもちろん、心の成長を目の当たりにすることが出来る素晴らしいさがあります。ジュニアスポーツ指導員合格を目指して頑張りましょう!!!				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ジュニアスポーツ指導員対策理論 1	第1章 概論 子どもの体力・運動能力の現状と課題～ジュニアスポーツ指導員の役割など		
	2	ジュニアスポーツ指導員対策理論 2	第2章 コーチング 発達に応じたコーチングとコーチングにおける留意点		
	3	ジュニアスポーツ指導員対策理論 3	第3章 体力 発育期発達期の体格、体力、体力テスト		
	4	ジュニアスポーツ指導員対策理論 4	第4章 動きの発達 幼児期、児童期、思春期以降		
	5	ジュニアスポーツ指導員対策理論 5	第5章 心理 有能感の発達、運動遊びと認知的発達		
	6	ジュニアスポーツ指導員対策理論 6	第6章 栄養 ジュニア期の栄養バランス		
	7	ジュニアスポーツ指導員対策理論 7	第7章 医学 小児の成長、安全で科学的な運動指導		
	8	ジュニアスポーツ指導員対策理論 8	第8章 医学 ジュニア期のスポーツ外傷・障害の実際		
	9	ジュニアスポーツ指導員対策理論 9	第9章 女性とスポーツ 女性において起こりやすい諸問題		
	10	ジュニアスポーツ指導員対策理論 10	第10章 運動遊び 遊び、アイスブレイクとレパートリーアレンジ		
	11	ジュニアスポーツ指導員模擬試験 1	第1章と2章		
	12	ジュニアスポーツ指導員模擬試験 2	第3章と4章		
	13	ジュニアスポーツ指導員模擬試験 3	第5章と6章		
	14	ジュニアスポーツ指導員模擬試験 4	第7章と8章		
15	ジュニアスポーツ指導員模擬試験 5	第9章と10章			

授業科目	ジュニアスポーツ指導実習 〔PH3・IN2・CO2・SB2〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	2年・3年前期		必修・選択区分	選択（TR・SB・PH）／必修（IN・CO）	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	子どもへのスイミングレッスンまたは体育指導、運動遊びを計画・実施・反省を行うことで、指導技術を習得する。また、実際に子どもと関わることで、実践的な子どもへのスポーツ指導法を学ぶ。				
到達目標	グループワークを通して、インストラクターの役割への理解。実習を通して、レッスンの計画方法の立案、子ども達への対応ができる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート・提出物の内容や期日がしっかり守られ、提出されたら評価する。 その他は指導案作成中や指導中の姿勢で評価する。		
	レポート	20			
	小テスト	0			
	提出物	20			
その他	60				
履修上の留意事項	指導計画案の作成や反省会は教室で実施し、グループワークを中心に進めます。班別指導実習が中心です。実習後には反省・日誌の記入・提出となります。初回は教室でオリエンテーションを行います。水泳指導においては、水に慣れていない子どもも多いので、計画の段階から責任感を強く持って授業に臨んでください。実習が始まれば、毎日が本番となります。常に緊張感を忘れず、実習を行ってください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション／指導計画の作成	オリエンテーション／指導計画・指導案作成		
	2	指導計画の作成	指導実習計画・指導案作成		
	3	指導計画案の作成	指導実習計画・指導案見直し		
	4	指導計画案の作成	指導実習計画・指導案見直し		
	5	指導計画案の予行演習	指導技術（補助・道具の利用方法）の練習		
	6	指導計画案の予行演習	指導技術（補助・道具の利用方法）の練習		
	7	指導計画案の予行演習	指導実習の練習・指導案見直し		
	8	指導計画案の予行演習	指導実習の練習・指導案見直し		
	9	指導実習	幼児A - 1		
	10	指導実習	保育園、スクール指導実習予定		
	11	指導実習	幼児A - 2		
	12	指導実習	保育園、スクール指導実習予定		
	13	指導実習	幼児A - 3		
	14	指導実習	保育園、スクール指導実習予定		
	15	指導実習	幼児A - 1		
	16	指導実習	保育園、スクール指導実習予定		
	17	指導実習	幼児A - 2		
	18	指導実習	保育園、スクール指導実習予定		
	19	指導実習	幼児A - 3		
20	指導実習	保育園、スクール指導実習予定			

21	指導実習	幼児 A - 1
22	指導実習	幼児 B
23	指導実習	幼児 A - 2
24	指導実習	幼児 B
25	指導実習	幼児 A - 3
26	指導実習	幼児 B
27	指導実習振り返り	幼児 AB 実習反省まとめ各班資料作成
28	指導実習振り返り	幼児 AB 実習反省まとめ各班資料作成
29	指導実習振り返り	幼児 AB 実習反省まとめ各班資料作成
30	指導実習振り返り	全体発表

授業科目	スイミングスキル〔SB2〕		担当教員	今井 由美子	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	各種泳法の基本技術を向上させ、指導員として模範となる泳ぎを習得する。効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のスピードアップを目指すことで水泳コーチ1の取得を目指す。また指導の仕方も習得し、実践能力を身に付ける。				
到達目標	水泳コーチ1を合格するための基準タイムをクリアし、泳力、テクニックを身につけ、今よりもより効率的な泳ぎができる。 到達目標 個人メドレーのタイムを計測し、基準タイムプラス5秒以内泳ぐことができる(第22回授業終了時) 到達目標 指導法を理解し実践できる(第15回授業終了時) 到達目標 4泳法を正しく泳ぐことができる(第11回終了時授業)				
テキスト・参考図書等	水泳指導教本・プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内にて行う小テスト、レポート(提出期日、内容)、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	10			
	小テスト	80			
	提出物	0			
その他	10				
履修上の留意事項	プールでの実技中心。必要な時はプリント配布。各種泳法等の技術習得は、様々な指導をする上での自信になりますし、幅広く活用できます。最終目標は個人によって様々ですが、それぞれの目標に向かって頑張りましょう。体調を万全にして授業に臨んでください。水泳コーチ1を受験する学生は、必ず履修してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	泳法確認		
	2	能力確認	100m個人メドレータイム計測・基本技術確認・安全水泳		
	3	各種泳法スキルアップ	Fr/持久カトレーニング/スカリング		
	4	各種泳法スキルアップ	Fr/スピードトレーニング/スカリング		
	5	各種泳法スキルアップ	Ba/持久カトレーニング/スカリング		
	6	各種泳法スキルアップ	Ba/スピードトレーニング/スカリング		
	7	各種泳法スキルアップ	Br/持久カトレーニング/スカリング		
	8	各種泳法スキルアップ	Br/スピードトレーニング/スカリング		
	9	各種泳法スキルアップ	Fly/持久カトレーニング/潜行/横泳ぎ		
	10	各種泳法スキルアップ	Fly/スピードトレーニング/潜行/横泳ぎ		
	11	泳法確認テスト	4泳法の確認テスト		
	12	指導実習	指導法実習		
	13	指導実習	個人指導		
	14	指導実習	集団指導		
	15	指導法確認テスト	指導法確認テスト		
	16	各種泳法スキルアップ	IMターン/スピードトレーニング/潜行/横泳ぎ		
	17	各種泳法スキルアップ	IMターン/スピードトレーニング/潜行/横泳ぎ		
	18	各種泳法スキルアップ	IMターン/スピードトレーニング/潜行/横泳ぎ		
19	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久カトレーニング、横泳ぎ、			

		潜行、飛び込み
20	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久カトレーニング、横泳ぎ、潜行、飛び込み
21	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久カトレーニング、横泳ぎ、潜行、飛び込み
22	タイム計測	100m個人メドレータイム計測
23	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久カトレーニング、飛び込み
24	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久カトレーニング飛び込み
25	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピード持久カトレーニング、飛び込み
26	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピードトレーニング、横泳ぎ
27	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み
28	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み
29	各種泳法・トレーニング	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み
30	タイム計測	100m個人メドレータイム計測

授業科目	スイミング理論〔AT3・MT3・IN2・CO2・SB2〕		担当教員	今井 由美子	
対象年次・学期	3年/2年・通年		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結びつける。水泳コーチ1検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。				
到達目標	水泳コーチ1合格に向けて、理解し述べる事が出来る。				
テキスト・参考図書等	水泳指導教本・プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	各章終了後の小テスト、提出物、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	70			
	提出物	20			
その他	10				
履修上の留意事項	各講義のテーマ毎にプリントを配布、水泳指導教本を使用し講義形式にて板書、説明を交えながら授業を展開する。覚えることがたくさんあって大変ですが、実技のレベルアップのためにも重要な内容です。また、水泳指導をおこなう上でも必要な基本的知識なので、実際の指導に役立てられるように頑張って習得しましょう。水泳コーチ1を受験する学生は、必ず履修してください。また、まだ迷っているという学生も履修してください。実技にも役立ちます。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス 第1章 水泳の歴史	授業の趣旨、内容説明 1-1. 水泳の起源と発展		
	2	第1章 水泳の歴史	1-2. 日本水泳の歴史と発展		
	3	第2章 水泳指導	2-1. 水泳指導者		
	4	第2章 水泳指導	2-2. スポーツとモラル		
	5	第2章 水泳指導	2-2. スポーツとモラル 2-3. 指導法		
	6	第2章 水泳指導	2-3. 指導法		
	7	小テスト			
	8	第3章 水泳の安全	3-1. 水泳事故総論 3-2. 水泳プール事故		
	9	第3章 水泳の安全	3-2. 水泳プール事故 3-3 自然の水域における事故		
	10	第3章 水泳の安全	3-4. 水泳プールの管理		
	11	第3章 水泳の安全	3-4. 水泳プールの管理		
	12	小テスト			
	13	第4章 水泳の科学	4-1. 水泳・水中の科学		
	14	第4章 水泳の科学	4-2. 水泳のバイオメカニクス		
	15	第4章 水泳の科学	4-2. 水泳のバイオメカニクス		
	16	第4章 水泳の科学	4-3. 水泳の生理学		
	17	第4章 水泳の科学	4-4. 水泳の心理学		
	18	小テスト			
	19	第4章 水泳の科学	4-5. 水泳のトレーニング		
	20	第4章 水泳の科学	4-5. 水泳のトレーニング		
21	第4章 水泳の科学	4-6. 水泳の医学 4-7. 水泳の栄養学			

22	小テスト	
23	メニュー立案	個人指導
24	メニュー立案	集団指導
25	第5章 水泳の技術	5-1. 共通技術
26	第5章 水泳の技術	5-1. 共通技術
27	第5章 水泳の技術	5-2. 各種泳法
28	第5章 水泳の技術	5-2. 各種泳法
29	競泳競技規則	各種泳法規則
30	小テスト	

授業科目	スポーツ産業学〔SB2〕	担当教員	若槻 稜磨		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	産業化するスポーツの傾向を理解し、現代社会におけるスポーツの社会的役割ならびに文化的性格を学習する。				
到達目標	現代社会におけるスポーツ市場の創造に向けて、スポーツの役割や性格を自ら考察できる。				
テキスト・参考図書等	・原田宗彦『スポーツ産業論 第7版』杏林書院、2021年。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	提出物（各回のコメントシートや作成した資料）、その他（受講姿勢、出席状況、確認テスト）で評価します。 受講者には、可能な限り休まずに授業に出席し、積極的な発言やディスカッションへの参加を求めます。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	50			
その他	50				
履修上の留意事項	調べものが多いのでPCを持参すること。日頃からスポーツ（特に経験のない種目）に関するニュースを確認しておく、理解しやすいかと思えます。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	これからのスポーツ考える	イントロダクション		
	2	地域とスポーツ	地域スポーツのマネジメント		
	3	地域とスポーツ	地域スポーツイベントを考える		
	4	地域とスポーツ	地域スポーツコミッション		
	5	スポーツと福祉のこれから	福祉の現場での健康・運動を考える		
	6	パラスポーツのこれから	パラスポーツの実態を知る		
	7	プロスポーツ	日本のプロスポーツを考える		
	8	プロスポーツ	日本のプロスポーツを考える		
	9	プロスポーツ	日本のプロスポーツを考える		
	10	プロスポーツ	日本のプロスポーツを考える		
	11	スポーツファンのこれから	プロスポーツのファンの変容		
	12	地域密着型プロスポーツのこれから	地域密着は実現するか？		
	13	スポーツ産業の未来	学生スポーツの産業化		
	14	スポーツ産業の未来	eスポーツの市場拡大		
15	授業のまとめ	これまでの授業のまとめと復習			

授業科目	プレゼンテーション論 〔SB2〕	担当教員	若槻 稜磨		
対象年次・学期	1年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的	プレゼンテーションを行うためのソフトの基本操作ならびに表現方法を学習し、実践するために必要な知識と技能を習得する。				
到達目標	プレゼンテーションの目的や発表技法を理解し、効果的な発表を自ら行うことができる。				
テキスト・参考図書等	参考文献 井庭 崇・井庭研究室『プレゼンテーション・パターン』慶應義塾大学出版会、2013年。 渡辺克之『「伝わる資料」デザイン・テクニック』ソーテック社、2015年。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート(プレゼンテーション資料の作成と発表)を中心に、提出物(各回のコメントシート)とその他(出席状況や受講姿勢)を加味して決定する。		
	レポート	50			
	小テスト				
	提出物	30			
その他	20				
履修上の留意事項	毎回PCを使用するので持参すること。プレゼンテーション作成の際には、Microsoft PowerPointの使用を推奨する。 Google スライドや Keynote を使用しても構わないが、PowerPoint と異なる部分については可能な限り自力で解決するものとする。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	伝えるとは何か?	イントロダクション		
	2	ポスター資料作成の基本	Word、PowerPointの基礎		
	3	イベントポスターの作成	見やすいポスターの設計を考える		
	4	イベントポスターの作成	1枚のポスターの作成		
	5	いいプレゼンテーションとは?	『プレゼンテーションパターン』に学ぶ		
	6	プレゼン資料作成の基本	プレゼンに向けた資料の調査		
	7	プレゼン資料作成の基本	PowerPointの操作		
	8	プレゼンの流れを考える	プレゼンの設計		
	9	プレゼンの流れを考える	4枚程度のスライドの作成		
	10	プレゼンテーションの方法	プレゼンに向けた資料の調査		
	11	プレゼンテーションの方法	プレゼンテーションの場での伝え方・話し方		
	12	プレゼンテーションの作成	プレゼンテーションの設計		
	13	プレゼンテーションの作成	8枚程度のスライドの作成		
	14	プレゼンテーションの作成	発表の準備		
15	最終プレゼンテーション	最終発表と相互評価			

授業科目	外国語〔トレ3・健康2〕		担当教員	斉藤 恵	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修(SB)・ 選択	単位数
授業形態			授業回数	30回	時間数
授業目的	外国語を学びながら言語や文化に関する理解を深め、さまざまな分野でのコミュニケーション能力を身につけるとともに、英語を将来の自分の仕事に役立てていきたいという意識を養う。				
到達目標	1) 挨拶からビジネスシーンでも使える自然な英語表現を理解する 2) 日常のやさしい会話を聞き、理解する 3) 単語を正確に理解し語彙力を高める				
テキスト・ 参考図書等	英会話 1000本ノック (コスモピア) / プリント教材 / アプリ教材				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	成績評価は口頭テスト、小テスト、その他授業態度等を合わせて総合的に評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	20			
その他	30				
履修上の 留意事項	グループワークが多いので、積極的な参加や学生間で協力する姿勢を高く評価します。				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業の進め方、取り組み方 / 自己紹介作成、発表		
	2	chapter 1 コミュニケーション力の基礎固め 短いひとこと	unit 1-3 世界共通挨拶/初対面挨拶/出会いと別れ際の連続 Thanks		
	3	chapter 1	unit 4-6 間違いやすいあいさつ インターネーション 別れ際の定番		
	4	chapter 1	unit 7-9 出会い頭定番表現 サウンドノック 数字ノック		
	5	chapter 1	unit 10-11 スポーツジムでの模擬会話 まずはあいさつ / 名前をしっかりと伝えよう		
	6	chapter 1	unit 11 challenge 模擬会話 保険の登録/入会特典の案内		
	7	chapter 2 ひとこと+簡単一文	unit 12-13 返事+How about you? 褒められて Thanks プラス1		
	8	chapter 2	unit 14-15 質問で聞き返す Spell it out! スペル伝達ノック		
	9	chapter 2	unit16-(17) Yes/No に補足1文プラスノック		
	10	chapter 2	unit18-19 名前を上手に伝える (日英)道案内の基本表現(道を教える)		
	11	chapter 2	unit20(日英)道案内の基本表現(道を聞く)/ unit 22 会話実践 道案内		
	12	chapter 2	unit 22 会話実践 道案内		
	13	chapter 3 ひとこと+補足の一文 (二刀流) Yes も No もどちらでも返す技	unit 23-24 ホテル定番/オンラインやり取り		
	14	chapter 3	unit 25-26 レストラン定番(オーダー編)(食事編)まとめ		
	15	前期 口頭テスト			
	16	chapter 3	unit 27-28 ショッピング定番 Friend 定番ノック		
	17	chapter 3	unit 30 天気や自然の質問(テンが良く、淡々と)		
18	chapter 3	unit 33 会話実践 会話 challenge はじめてのオンライントーク			

19	chapter 4 中級編 ひとこと + 補足 2 文 自分の好みや身近なこと	unit 34 Do you... ? 現在形 Round 1, Round 2 and Round 3
20	chapter 4	unit 35 Was, Did, Were... ? 過去形 Round 1, Round 2 and Round 3
21	chapter 4	unit 36 Have you ever... ? 現在完了形 Round 1, Round 2 and Round 3
22	chapter 4	unit 36 Have you ever... ? 現在完了形 Round 1, Round 2 and Round 3
23	chapter 5 中級編 ひとこと + 補足 2 文 情報や感想を伝える	unit 40 Who... ? ~はだれですか? Round 1, Round 2
24	chapter 5	unit 41 What... ? ~は何ですか? Round 1, Round 2
25	chapter 5	unit 42 Where ... ? ~はどこですか? Round 1, Round 2
26	chapter 5	unit 43 When... ? ~はいつですか? Round 1, Round 2
27	chapter 5	unit 44 How... ? どれくらい~ですか? Round 1, Round 2
28	review	振り返り まとめ
29	review	振り返り まとめ
30	試験	口頭テスト
31		

授業科目	健康プログラム〔健康2〕	担当教員	小笠原 鷹介		
対象年次・学期	1年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的	専門知識を学び、実践者に対し適切なプログラムや指導を行うにあたり、様々な側面に配慮できるようにする。				
到達目標	スポーツプログラマーとしての資質向上を目指し、現場指導において実践者に満足していただけるプログラムを提供できるようにする。				
テキスト・参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内での小テストやレポート、その他出席状況や授業態度等を総合的に評価する。		
	レポート	30			
	小テスト	30			
	提出物	20			
その他	20				
履修上の留意事項	講義形式、視聴覚機器の活用、そして資料を中心に授業を進めていきます。基礎知識+応用(現場経験)=専門(プロ)となります。人に何かを伝える、上達させる、改善することを授業を通じて、順応できることを目指しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業内容、成績評価基準、諸注意等の説明		
	2	運動と健康	運動と健康		
	3	運動と健康	スポーツプログラマーの役割		
	4	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	フィットネストレーニング		
	5	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	フィットネストレーニング 着地衝撃とその緩和法		
	6	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	フィットネストレーニング 投動作と打動作の共通点、運動と流体力		
	7	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	マシーントレーニング		
	8	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	ヘルス・エクササイズ		
	9	フィットネス・エクササイズ と健康管理	フィットネス・エクササイズと体調 1) 体調チェックの意義と方法		
	10	フィットネス・エクササイズ と健康管理	フィットネス・エクササイズと体調 2) スポーツと疲労回復(栄養と休養)		
	11	フィットネス・エクササイズ と健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン		
	12	フィットネス・エクササイズ と健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン		
	13	運動生理学	運動と血液・体液 成長期における体力・基本的動作のスキル発達		
	14	運動生理学 まとめ	成人以降の加齢に伴う体力・運動能力の低下 体力に及ぼす先天的・後天的効果 学習内容の復習		
15	まとめ	学習内容の復習			

授業科目	健康プログラム〔健康2〕	担当教員	小笠原 鷹介		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	専門知識を学び、実践者に対し適切なプログラムや指導を行うにあたり、様々な側面に配慮できるようにする。				
到達目標	スポーツプログラマーとしての資質向上を目指し、現場指導において実践者に満足していただけるプログラムを提供できるようにする。				
テキスト・参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内での小テストやレポート、その他出席状況や授業態度等を総合的に評価する。		
	レポート	30			
	小テスト	30			
	提出物	20			
その他	20				
履修上の留意事項	講義形式、視聴覚機器の活用、そして資料を中心に授業を進めていきます。基礎知識+応用(現場経験)=専門(プロ)となります。人に何かを伝える、上達させる、改善することを授業を通じて、順応できることを目指しましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業について、諸注意等		
	2	体力測定と評価	体力測定の方法		
	3	体力測定と評価	体力測定の方法		
	4	体力測定と評価	測定結果の処理		
	5	体力測定と評価	体力評価とスポーツプログラム		
	6	フィットネスプログラムの実際	フィットネスプログラムの基本的な方法 トレーニングの原則、健康増進のための運動効果		
	7	フィットネスプログラムの実際	子どものフィットネスプログラム 身体活動に指針の具体例		
	8	フィットネスプログラムの実際	子どものフィットネスプログラム ウォームアップとクールダウン		
	9	フィットネスプログラムの実際	中年のフィットネスプログラム 運動プログラムの基本的な考え方、目標設定		
	10	フィットネスプログラムの実際	中年のフィットネスプログラム 運動のプログラミング		
	11	フィットネスプログラムの実際	女性のフィットネスプログラム/障害者のフィットネスプログラム 有酸素運動、レジスタンス運動		
	12	スポーツ相談の実際	スポーツ相談の意義/スポーツ相談の実施		
	13	まとめ	学習内容の復習		
	14	まとめ	学習内容の復習		
15	まとめ	学習内容の復習			

授業科目	健康運動実践指導者対策実技〔健康2〕		担当教員	今井 由美子	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	健康運動実践指導者検定合格に向けて、レジスタンス運動・有酸素運動の指導実践ができるようになる。				
到達目標	健康運動実践指導者実技試験を合格するレベルで指導できる。				
テキスト・参考図書等	プリント、DVD				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テストでは模擬試験での評価とする その他は積極的な受講姿勢等で評価する		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	10			
その他	40				
履修上の留意事項	スタジオ・プールでの指導実践が中心となる。健康運動実践指導者に必要な指導能力を理解し、指導者としての資質向上を目指し取り組んでいきましょう。皆さん自身の指導実演能力が問われる資格です。この授業で100%合格できる自信をつけられるよう学んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ガイダンス	授業の進め方について説明・検定内容の説明		
	2	有酸素運動・レジスタンス運動の基礎学習	DVD視聴および内容の把握・暗記、陸上での実演、W-up・C-down		
	3	指導練習①	レジスタンス運動の指導方法		
	4	指導練習②	レジスタンス運動の指導方法		
	5	指導練習	レジスタンス運動の指導方法		
	6	指導練習	レジスタンス運動の指導方法		
	7	指導練習	有酸素運動の指導方法		
	8	指導練習	有酸素運動の指導方法		
	9	指導練習	有酸素運動の指導方法		
	10	指導練習⑧	有酸素運動の指導方法		
	11	指導練習	5分間の実践指導練習		
	12	指導練習	5分間の実践指導練習		
	13	指導練習	検定試験と同様の形で実技試験の実施		
	14	模擬試験	検定試験と同様の形で実技試験の実施		
15	模擬試験	検定合格基準に満たない学生対象の再試験実施			

授業科目	健康運動実践指導者対策理論 〔健康2〕		担当教員	喜多 奎介	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。				
到達目標	健康運動実践指導者理論試験合格を目標とする。				
テキスト・参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	100				
履修上の留意事項	講義及び演習形式にて授業を展開していきます。「健康運動実践指導者」に必要とされる知識・技術について学習します。他の教科と共通する部分を確認し、日々の学習の中で関連させながら理解を深め健康運動実践指導者合格に向けて学習して行きましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	2	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	3	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	4	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	5	模試	試験本番を想定した模試の実施		
	6	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	7	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	8	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	9	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	10	模試	試験本番を想定した模試の実施		
	11	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	12	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	13	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
	14	練習問題・解きなおし	重要点を集約した練習問題の実施・解きなおし		
15	模試	試験本番を想定した模試の実施			

授業科目	健康運動理論 [MT2・PH2・健康2]		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分		単位数
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。				
到達目標	健康運動理論、健康運動理論の履修で健康運動実践指導者理論試験合格レベルを目標とする。				
テキスト・参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60			
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	40				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・第1章 健康運動づくり施策概論	授業内容説明、諸注意、その他 1)健康と健康増進の概念		
	2	第1章 健康づくり施策概論	1)健康と健康増進の概念 2)わが国の現状		
	3	第1章 健康づくり施策概論	3)生活習慣病とメタボリックシンドローム 他		
	4	第2章 運動生理学	1)運動の発現 2)骨格筋収縮の仕組み 筋収縮エネルギー供給機構		
	5	第2章 運動生理学	3)筋線維タイプと収縮特性 5)筋収縮の様式と筋力		
	6	第2章 運動生理学	6)トレーニングと骨格筋 7)運動の持続と呼吸循環 他		
	7	第2章 運動生理学	11)トレーニングによる呼吸循環系の適応 他		
	8	第3章 機能解剖とバイオメカニクス	1)身体運動に関係する筋と骨格 2)関節運動		
	9	第3章 機能解剖とバイオメカニクス	3)筋の弾性要素と弾性エネルギー 他		
	10	第4章 栄養摂取と運動	1)健康と栄養、消化、吸収、食品群		
	11	第4章 栄養摂取と運動	8)生活習慣と栄養・食生活、生活習慣病と栄養と食生活		
	12	第5章 運動指導の心理学的基礎	1)運動実践にかかわる社会・心理・環境的要因 他		
	13	第5章 運動指導の心理学的基礎	2)運動実践によって得られる心理的効果の内容とその効果を高める要因 他		
	14	まとめ・復習(1章~3章)	プリント・模試による復習とまとめ		
15	まとめ・復習	プリント・模試による復習とまとめ			

授業科目	健康運動理論 [MT2・IN2・CO2・SB2]	担当教員	田中 いぶき		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的	健康運動実践指導者に必要な知識の習得を目標とする。また、健康運動実践指導者筆記試験合格レベルを目指す。				
到達目標	健康運動理論、健康運動理論の履修によって健康運動実践指導者理論試験合格レベルを目標とする。				
テキスト・参考図書等	健康運動実践指導者養成用テキスト				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60	レポート、小テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を考慮し、評価します。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	40				
履修上の留意事項	講義及び演習形式にて授業を展開していきます。「健康運動実践指導者」に必要とされる知識・技術について学習します。他の教科と共通する部分を確認し、日々の学習の中で関連させながら理解を深め健康運動実践指導者合格に向けて学習して行きましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション 第6章 体力測定と評価	授業内容説明、諸注意、その他 1) 体力とは 他		
	2	第6章 体力測定と評価	5) 体力測定 他		
	3	第7章 健康づくりと運動プログラム	1) 運動づくりのための運動・トレーニング理論・原則 他		
	4	第7章 健康づくりと運動プログラム	4) ウォームアップとクールダウン 他		
	5	第8章 健康づくり運動の実際	1) 健康運動実践指導者とは 他		
	6	第8章 健康づくり運動の実際	2) ウォーキングとジョギング 他		
	7	第8章 健康づくり運動の実際	3) エアロビクダンス 他		
	8	第8章 健康づくり運動の実際	5) レジスタンス運動		
	9	第9章 運動障害と予防・救急処置	1) 運動前の内科的メディカルチェックについて 他		
	10	第9章 運動障害と予防・救急処置	5) 救急処置(救急蘇生法)		
	11	総復習	6～9章までの復習		
	12	総復習	6～9章までの復習		
	13	総復習	1～9章の復習		
	14	総復習	1～9章までの復習		
15	まとめテスト	まとめテスト			

授業科目	情報基礎〔健康2・SB1〕		担当教員	宮野 ゆかり	
対象年次・学期	3年/2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	ビジネスの場面に必要とされる、PC操作と情報の扱い方を学習する。				
到達目標	資料作成およびデータの整理と活用にむけて、WordならびにExcelの基本操作方法を理解し、場面に応じて使用できる。				
テキスト・参考図書等	授業時に適宜プリントを配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	20	提出物、試験課題、その他(受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	60			
その他	20				
履修上の留意事項	<p>毎回の授業では、各自が使用するPCを用いて、授業時に指定する方法を用いて課題を提出することで、上記「提出物」の評価とする。</p> <p>第15・30回目の授業では、クラスルーム内等に設置した提出先に締切までに試験課題を提出することで上記「試験」の評価とする。</p> <p>授業内容は進度によって変更になる場合があります。</p>				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーションと授業の導入	講義の進め方と試験方法、成績評価等のガイダンス		
	2	PCの基本操作	PCの基本操作やキーボードについて		
	3	Wordの基本操作	文字入力練習		
	4	Wordの基礎	ページ設定・書式設定		
	5	Wordの基礎	表作成・画像の挿入		
	6	Wordの活用	ビジネス文書の基礎		
	7	Wordの活用	ビジネス文書の作成		
	8	Wordの活用	地図作成(図形の応用)		
	9	Wordの活用	地図付きビジネス文書		
	10	Wordの活用	デザイン文書(段組み・ページ罫線)		
	11	Wordの活用	差し込み印刷(案内状)		
	12	Wordの活用	差し込み印刷(名刺)		
	13	powerpointの基礎	シート作成とデザイン		
	14	powerpointの活用	プレゼンテーション資料の作成		
	15	前期のまとめ	前期の授業内容のまとめと復習、試験課題		
	16	Excelの基本操作	シート入力・オートフィル		
	17	Excelの基礎	四則演算		
	18	Excelの基礎	関数の利用(合計・平均・個数・最大値・最小値)		
	19	Excelの基礎	関数の利用(順位付け・四捨五入・切り上げ・切り捨て)		
	20	Excelの基礎	関数の利用(判定・表検索)		
21	Excelの基礎	グラフの作成			

	22	Excel の基礎	データベース機能
	23	Excel の活用	在庫管理作成（条件付き書式）
	24	Excel の活用	体重管理作成（複合グラフ）
	25	Excel の活用	インターネットの利用
	26	Word と Excel の連携	グラフの入ったビジネス文書
	27	powerpoint と Excel の連携	絵グラフのスライド利用
	28	powerpoint の応用	紙芝居作成（音・アニメーションの挿入）
	29	情報倫理	インターネットを利用した情報の活用と倫理
	30	後期のまとめ	後期の授業内容のまとめと復習、試験課題

授業科目	スポーツプログラマー対策 〔トレ3・健康2〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	3年/2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	スポーツプログラマー検定の合格及び資格取得に向けて論理的に理解する。				
到達目標	スポーツプログラマー検定の合格及び資格取得に向けて、得点平均8割台を目標とする。				
テキスト・参考図書等	スポーツプログラマー専門科目テキスト 必要に応じて、資料を配布				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テスト 50% その他 50% (受講姿勢、受講態度等 30%、担当所見 20%)		
	レポート	0			
	小テスト	50			
	提出物	0			
	その他	50			
履修上の 留意事項	教本、資料を参考に論理的に授業を進め、模擬試験で理解度を確認する。				
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	運動と健康	運動と健康		
	2	運動と健康	スポーツプログラマーの役割		
	3	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	フィットネス・トレーニング		
	4	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	マシーントレーニング		
	5	フィットネス・エクササイズ の理論と実際	ヘルス・エクササイズ		
	6	フィットネス・エクササイズ と健康管理	フィットネス・エクササイズと体調		
	7	フィットネス・エクササイズ と健康管理	ウォーミングアップとクーリングダウン		
	8	体力測定と評価	体力測定の方法、測定結果の処理、体力評価とスポーツ プログラム		
	9	フィットネスプログラムの 実際	フィットネスプログラムの基本的な方法		
	10	フィットネスプログラムの 実際	子ども・中年のフィットネスプログラム		
	11	フィットネスプログラムの 実際	高齢者・女性・障害者のフィットネスプログラム		
	12	スポーツ相談の実際	スポーツ相談の意義、スポーツ相談の実際		
	13	確認テスト	過去問題、解答、説明		
	14	確認テスト	過去問題、解答、説明		
15	確認テスト	過去問題、解答、説明			

授業科目	二年次研究課題〔健康2〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	評価内容				
	評価内容				
	評価割合				
	評価割合				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		

授業科目	二年次研究課題〔健康2〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	評価内容				
	評価内容				
	評価割合				
	評価割合				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		

授業科目	二年次研究課題〔健康2〕		担当教員	教員 未登録	
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	評価内容				
	評価内容				
	評価割合				
	評価割合				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		

授業科目	水泳コーチ 対策理論〔トレ3・健康2〕		担当教員	今井 由美子	
対象年次・学期	3年/2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	水の特性・効果等を理解し、実際の泳ぎに結び付ける。水泳コーチ1検定に必要な専門分野の知識を学び、検定合格を目指す。				
到達目標	模擬試験 で6割以上の点数を取る。				
テキスト・参考図書等	水泳指導教本				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		小テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する		
	レポート				
	小テスト	80			
	提出物				
その他	20				
履修上の留意事項	3科目ある学科の模擬試験を全て6割以上取れるように、教本をよく読み、問題を理解しよう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	小テスト	復習とまとめ		
	2	模擬試験	模擬試験		
	3	模擬試験 解答・復習	解答・間違えた問題の分析		
	4	第2章 水泳指導	記述問題対策		
	5	第3章 水泳の安全	出題傾向の多い箇所の復習		
	6	第4章 水泳の化学	出題傾向の多い箇所の復習		
	7	模擬試験	模擬試験		
	8	模擬試験 解答・復習	解答・間違えた問題の分析		
	9	特別対策	苦手な部分の傾向と対策		
	10	特別対策	苦手な部分の傾向と対策		
	11	特別対策	苦手な部分の傾向と対策		
	12	模擬試験	模擬試験		
	13	模擬試験 解答・復習	解答・間違えた問題の分析		
	14	模擬試験	模擬試験		
15	模擬試験 解答・復習	解答・間違えた問題の分析			

授業科目	水泳コーチ 対策理論(トレ3・健康2)	担当 教員 実務 経験	今井由美子 有： 無：	
対象年次・学期	3年/2年・集中	担当 教員		
授業形態		実務 経験		
		担当 教員 実務 経験		

授業科目	水泳コーチ 対策実技〔トレ3・健康2〕		担当教員	今井 由美子	
対象年次・学期	3年/2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態		授業回数	15回	時間数	30時間
授業目的	各種泳法の基本技術を向上させ、指導員として模範となる泳ぎを習得する。効率よく泳ぐ方法を習得し、各種泳法のタイムアップを目指し、水泳コーチ1の取得を目指す。				
到達目標	泳法を改善することで、より速い個人メドレーを泳ぐ事が出来る。				
テキスト・参考図書等	水泳指導教本・プリント				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	小テスト、その他(受講姿勢、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート	0			
	小テスト	80			
	提出物	0			
その他	20				
履修上の留意事項	各種泳法等の技術習得は、様々な指導をする上での自信になりますし、幅広く活用できます。最終目標は個人メドレーのタイムを切る事です。体調を万全にして授業に臨んでください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	能力確認	個人メドレータイム計測・基本技術確認・横泳ぎ		
	2	能力確認	タイム計測・基本技術確認・横泳ぎ		
	3	各種泳法スキルアップ	Fr/スピードトレーニング		
	4	各種泳法スキルアップ	Ba/スピードトレーニング		
	5	各種泳法スキルアップ	Br/スピードトレーニング		
	6	各種泳法スキルアップ	Fly/スピードトレーニング		
	7	各種泳法スキルアップ	IM ターン/スピードトレーニング		
	8	タイム測定	個人メドレータイム測定		
	9	各種泳法スキルアップ	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み		
	10	各種泳法スキルアップ	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み		
	11	各種泳法スキルアップ	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み		
	12	各種泳法スキルアップ	個人メドレー、スピードトレーニング、飛び込み		
	13	泳法確認	個人メドレー、潜行、横泳ぎ、飛び込み		
	14	タイム測定	個人メドレータイム測定		
15	タイム測定	個人メドレータイム測定			

授業科目	スノーボード・スキー実習 〔共通2〕	担当教員	小笠原 鷹介		
対象年次・学期	2年・集中	必修・選択区分	選択	単位数	
授業形態		授業回数	15回	時間数	60時間
授業目的	スキー・スノーボードにおける、基礎技術・知識の習得と向上を目指す。 スキー・スノーボード検定受験により、資格取得を目指す。				
到達目標	冬山における、怪我の予防、ゲレンデマナー及びリスクマネジメントを理解し、指導者としての資質を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料等配布する。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	レポート・提出物等の状況を総合的に評価する その他は受講姿勢等で評価する		
	レポート	10			
	小テスト	0			
	提出物	10			
	その他	80			
履修上の留意事項	宿泊研修という決まりの中で、自己管理、時間管理を徹底して行う事。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	事前説明会	目的、注意事項伝達		
	2	1日目午後レッスン開始	各班に分かれ道具の特性・理論等を学ぶ		
	3	1日目ミーティング	1日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	4	1日目ナイター練習	1日目に学んだことを復習する。		
	5	2日目午前レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ		
	6	2日目午後レッスン開始	1日目より難易度の高い事を学ぶ		
	7	2日目ミーティング	2日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	8	2日目ナイター練習	2日目に学んだことを復習する。		
	9	3日目午前レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ		
	10	3日目午後レッスン開始	2日目より難易度の高い事を学ぶ		
	11	3日目ミーティング	3日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する		
	12	3日目ナイター練習	3日目に学んだことを復習する。		
	13	4日目午前レッスン開始	各班に分かれ、検定へ向けてレッスンをする		
	14	4日目検定	今まで学んだことを踏まえて検定に臨む		
15	4日目ミーティング	4日目学んだことを各班で話し合い、日誌に記入する			

授業科目	ボランティア活動〔共通2〕		担当教員	今北 雄太	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数	15回	時間数 30時間
授業目的	ボランティア活動を通じて、直接的に実践力を身につける。				
到達目標	ボランティア活動先における実務遂行を通じてボランティア精神や各種能力・技術力の向上を図る。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	ボランティア活動先の担当者に、実務遂行状況について、相対的な判断にて評価してもらう。(ボランティア活動先の担当者と当該クラス担任間において情報交換し評価する場合もある。) 「ボランティア活動報告書」の提出をもって、活動状況を把握する。		
	レポート	0			
	小テスト	0			
	提出物	0			
その他	100				
履修上の留意事項	学外での活動であり、ボランティア活動先において学習するため、各自の目標設定やスケジュール管理が大変重要となります。活動期間が有意義なものとなるように、コミュニケーションをしっかりと取りながら、目標達成を目指してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	2	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	3	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	4	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	5	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	6	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	7	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	8	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	9	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	10	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	11	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	12	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	13	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
	14	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する		
15	ボランティア活動先における実務遂行	ボランティア活動内容について、実務を通じて学習する			

授業科目	検定対策〔MT2・IN2・CO2・SB2〕		担当教員	田中 いぶき	
対象年次・学期			必修・選択区分	単位数	
授業形態			授業回数	30回	時間数 60時間
授業目的	健康運動実践指導者試験合格に向けて、実技・理論試験対策を行い、指導者としてのスキルを身に付ける。				
到達目標	健康運動実践指導者試験合格と共に、健康運動実践指導者に求められる知識を習得する。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0			
	レポート	0			
	小テスト				
	提出物	60			
その他	40				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業概要説明 復習演習		
	2	健康運動実践指導者対策	動画作成・視聴		
	3	健康運動実践指導者対策	動画作成・視聴		
	4	健康運動実践指導者対策	動画作成・視聴		
	5	健康運動実践指導者対策	動画作成・視聴		
	6	健康運動実践指導者対策	動画作成・視聴		
	7	健康運動実践指導者対策	動画作成・視聴		
	8	健康運動実践指導者対策	動画作成・視聴		
	9	健康運動実践指導者対策	動画作成・視聴		
	10	健康運動実践指導者対策	動画作成・視聴		
	11	健康運動実践指導者対策	実技試験		
	12	健康運動実践指導者対策	実技対策		
	13	健康運動実践指導者対策	実技対策		
	14	健康運動実践指導者対策	実技対策		
	15	健康運動実践指導者対策	実技対策		
	16	健康運動実践指導者対策	第1章：健康づくり施策概論 第2章 運動生理学		
	17	健康運動実践指導者対策	第3章：機能解剖とバイオメカニクス		
	18	健康運動実践指導者対策	第4章：栄養摂取と運動		
	19	健康運動実践指導者対策	第5章：運動指導の心理学的基礎		
	20	健康運動実践指導者対策	第6章 体力測定と評価		
	21	健康運動実践指導者対策	第7章 健康づくりと運動プログラム		
22	健康運動実践指導者対策	第7章：健康作りと運動プログラム			

	23	健康運動実践指導者対策	第8章 健康づくり運動の実際
	24	健康運動実践指導者対策	第9章 運動障害と予防・救急処置
	25	健康運動実践指導者対策	問題演習
	26	健康運動実践指導者対策	問題演習
	27	健康運動実践指導者対策	問題演習
	28	健康運動実践指導者対策	問題演習
	29	健康運動実践指導者対策	問題演習
	30	健康運動実践指導者対策	問題演習

授業科目	検定対策〔MT2・IN2・CO2・SB2〕	担当教員	喜多 奎介		
対象年次・学期	2年・通年	必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数	30回	時間数	60時間
授業目的	健康運動指導士、健康運動実践指導者合格に必要な知識を習得する。				
到達目標	健康運動実践指導者合格に向けた知識の習得				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験				
	レポート	30%			
	小テスト	40%			
	提出物				
その他	30%				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション・復習	授業の説明、検定対策 の復讐		
	2	健康運動実践指導者試験対策	復習・作問 第1章 健康づくり施策概論		
	3	健康運動実践指導者試験対策	模試 第1章 健康づくり施策概論		
	4	健康運動実践指導者試験対策	復習・作問 第2章 運動生理学		
	5	健康運動実践指導者試験対策	模試 第2章 運動生理学		
	6	健康運動実践指導者試験対策	復習・作問 第3章 機能解剖とバイオメカニクス		
	7	健康運動実践指導者試験対策	模試 第3章 機能解剖とバイオメカニクス		
	8	健康運動実践指導者試験対策	復習・作問 第4章 栄養摂取と運動		
	9	健康運動実践指導者試験対策	模試 第4章 栄養摂取と運動		
	10	健康運動実践指導者試験対策	復習・作問 第5章 運動指導の心理的基礎		
	11	健康運動実践指導者試験対策	模試 第5章 運動指導の心理的基礎		
	12	健康運動実践指導者試験対策	復習・作問 第6章 体力測定と評価		
	13	健康運動実践指導者試験対策	模試 第6章 体力測定と評価		
	14	健康運動実践指導者試験対策	復習・作問 第7章 健康づくりと運動プログラム		
	15	健康運動実践指導者試験対策	模試 第7章 健康づくりと運動プログラム		
	16	健康運動実践指導者試験対策	復習・作問 第8章 健康運動づくり運動の実際		
	17	健康運動実践指導者試験対策	模試 第8章 健康運動づくり運動の実際		
18	健康運動実践指導者試験対策	復習・作問 第9章 運動障害と予防・救急処置			

19	健康運動実践指導者試験対策	模試 第9章 運動障害と予防・救急処置
20	健康運動実践指導者試験対策	全章振り返り
21	健康運動実践指導者試験対策	全章振り返り
22	健康運動実践指導者試験対策	全章振り返り
23	健康運動実践指導者試験対策	作問・模試 1章、2章
24	健康運動実践指導者試験対策	作問・模試 3章、4章
25	健康運動実践指導者試験対策	作問・模試 5章・6章
26	健康運動実践指導者試験対策	作問・模試 7章、9章
27	健康運動実践指導者試験対策	作問・模試 8章
28	健康運動実践指導者試験対策	確認テスト
29	健康運動実践指導者試験対策	確認テスト
30	健康運動実践指導者試験対策	確認テスト

授業科目	スポーツマーケティング論 〔PH3・SB1・SB2〕	担当教員	若槻 稜磨		
対象年次・学期	前期	必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	スポーツマーケティングを網羅的に学ぶことで、スポーツ市場の消費者の特性やマーケティングの基本的な考え方を理解する。				
到達目標	受講者自身の専門競技の経験に頼らず、消費者の特性やマーケティングの理論に基づいてスポーツビジネスに関わることができるようになる。				
テキスト・参考図書等	仲澤眞・吉田政幸編著『よくわかるスポーツマーケティング』ミネルヴァ書房、2017年。				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		レポート(学期中に複数作成して提出)を中心に、提出物(各回のコメントシート)とその他(受講姿勢、出席状況、確認テスト)を加味して評価をおこないます。 レポートでは、授業以外の場面でニュースを見たりスポーツを観戦したりして、自分の考えをまとめることを要求します。		
	レポート	50			
	小テスト				
	提出物	30			
その他	20				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	スポーツマーケティングとは何か	なぜスポーツがビジネスになるか		
	2	スポーツマーケティングとは何か	スポーツマーケティングの特性		
	3	スポーツマーケティングのプロセス	スポーツマーケティングの基本的な流れ		
	4	マーケティングの基礎	プロダクト論、価格政策論		
	5	マーケティングの基礎	プロモーション論、流通政策論		
	6	マーケティングの基礎	プロモーション論		
	7	スポーツ消費者の特性	参加型スポーツの消費者		
	8	スポーツ消費者の特性	観戦型スポーツの消費者		
	9	マーケットリサーチ	スポーツマーケティングにおける STP		
	10	スポーツマーケティングの展開	スポンサーシップ		
	11	スポーツマーケティングの展開	スポーツブランドと権利ビジネス		
	12	スポーツマーケティングの展開	顧客価値の創造		
	13	これからのスポーツマーケティング	スポーツマーケティングの未来		
	14	マーケティングの実践	スポーツ市場の調査		
15	マーケティングの実践	最終発表またはレポート			

授業科目	スポーツツーリズム研究〔SB2〕	担当教員	今北 雄太		
対象年次・学期	スポーツビジネスコース2年・前期	必修・選択区分	必修・2単位	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	スポーツツーリズムについて、その意義、現状、事例を学び、ツーリズムの重要なコンテンツとしてのスポーツの理解を深める。				
到達目標	スポーツツーリズムの現状について理解し、実施可能な試案を作成することができる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		レポートおよび提出物の内容、その他（受講姿勢、受講態度等）を総合的に評価する。		
	レポート	30			
	小テスト				
	提出物	40			
その他	30				
履修上の留意事項	スポーツツーリズムの現場でご活躍されている講師の方々によるリアリティあふれる授業となります。北海道のスポーツツーリズムの現状をしっかりと把握できるよう、積極的な受講を期待します。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	日本・北海道観光政策（概論）	観光政策全般（観光は地方創生の起爆剤）		
	2	日本・北海道におけるスポーツツーリズムについて	スポーツツーリズムの歴史的背景と今後の展望		
	3	北海道のアウトドアガイドについて	北海道アウトドアガイド資格制度、アドベンチャートラベルガイド		
	4	アドベンチャートラベルについて	アドベンチャートラベル全般について		
	5	サイクルツーリズムについて	北海道におけるサイクルツーリズム		
	6		ゴルフツーリズムについて		
	7	スポーツ合宿	スポーツ合宿事業の現状と国際交流について		
	8	南富良野町を研究	町民2,400名うち、40名（10社）がアウトドアガイド。その実態や活動内容について		
	9	ケア・ツーリズムについて（リハビリ、レスパイトツーリズム）	ケア・ツーリズムの意義や目的。これからの課題について		
	10	阿寒摩周国立公園トレイルネットワークについて	欧米豪旅行者が好む、ロングトレイル実現に至る経緯や今後の展望について		
	11	フィールドワーク	アドベンチャートラベル		
	12	試案の作成	グループワークにて実現可能なスポーツツーリズム施策について検討		
	13	試案の作成	グループワークにて実現可能なスポーツツーリズム施策について検討		
	14	試案の作成	グループワークにて実現可能なスポーツツーリズム施策について検討		
15	試案の発表	各グループごとに考えた試案についてプレゼンテーション			

授業科目	スポーツメディア論〔SB2〕	担当教員	若槻 稜磨		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	さまざまなメディアがスポーツに与えてきた影響を学び、これからのスポーツとメディアのありかたについて考える。				
到達目標	さまざまなメディアの特徴を理解したうえで、メディアと関わったり、自らがそのような仕事をしたりできるようになる。				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		レポート、提出物（各授業のリアクションペーパー）、その他（受講姿勢や授業内に実施する確認テストなど）によって評価する。 受講者には授業を理解したうえで、授業外で新聞や雑誌、ニュースなどを日ごろから見て学ぶことが求められる。		
	レポート	50			
	小テスト				
	提出物	30			
その他	20				
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	スポーツメディアとは何か	メディアとは、報道とは		
	2	活字メディアの登場	新聞、雑誌、書籍		
	3	放送メディアの登場	ラジオ・映画・テレビ中継		
	4	テレビとスポーツ	報道、バラエティ		
	5	スポーツと創作	スポーツ映画・漫画の世界		
	6	インターネットとスポーツ	WEBメディアの登場		
	7	インターネットとスポーツ	SNSの時代		
	8	マスメディアとスポーツイベント	スポーツイベントの報じられ方		
	9	メディアを知る	業界で働く人々		
	10	メディアを知る	スポーツ研究に関わる人々		
	11	メディアリテラシー	リテラシー、著作権		
	12	メディアと関わる	プレスリリース、取材対応		
	13	メディアになる	WEB記事の作成		
	14	メディアになる	SNS、動画サイトの活用		
15	情報化時代のスポーツ	授業のまとめ、情報化の課題			

授業科目	FCM 対策〔SB2〕		担当教員	今井 由美子	
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的					
到達目標					
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0			
	レポート	0			
履修上の留意事項					
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		

授業科目	イベント集客〔SB1・SB2〕	担当教員	中根 望		
対象年次・学期	健康学科 SB1 年 2 年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的	イベントの成功は「集客」に大きく左右されます。素晴らしいイベントを企画しても参加者が集まらなければ意味がありません。実際に、付帯設備スポーツプラザ iB のイベント集客を行いながら、集客手法や発信力、マーケティングスキルを学びます。				
到達目標	将来目指す、スポーツビジネスの現場で活かせる「人を動かす力」を身に付ける。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験				
	レポート	60			
	小テスト				
	提出物	20			
その他	20				
履修上の留意事項	スポーツイベントには必要不可欠なスキルです。グループディスカッション、実践、発表などを通し、自ら積極的に創り出す姿勢で受講してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	授業の進め方、最終到達目標について		
	2	イベントの基礎知識	イベント立案から運営までのプロセスについて知る		
	3	イベント集客の基礎知識	集客手法や分析方法などの基礎知識を学ぶ グループ分け		
	4	イベントの把握(着衣水泳 or 夏短期スクール)	概要、対象、過去実績等イベントの把握をし、集客方法・実施スケジュールを考える		
	5	イベントの把握(着衣水泳 or 夏短期スクール)	概要、対象、過去実績等イベントの把握をし、集客方法を立案する		
	6	集客方法の立案・計画(着衣水泳 or 夏短期スクール)	企画書作成		
	7	集客方法の立案・計画(着衣水泳 or 夏短期スクール)	企画書作成		
	8	集客計画(夏短期スクール) 集客実践(着衣水泳)	企画書作成		
	9	集客実践(着衣水泳・夏短期スクール)	企画書通りに実践		
	10	集客実践(着衣水泳・夏短期スクール)	企画書通りに実践		
	11	着衣水泳についてのまとめ	着衣水泳の集客結果について、分析、振り返り、反省を行う		
	12	夏の短期スクールのまとめ	夏短期の集客結果について分析、振り返り、反省を行う		
	13	発表資料の作成	必要な資料を作成する		
	14	発表資料の作成	必要な資料を作成する		
15	まとめ・発表	集客・分析結果や個人についても振り返りと反省をまとめ、発表する			

授業科目	ブランディング【SB2】		担当教員	中根 望	
対象年次・学期	2年・通年		必修・選択区分	必修	単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	広報における企業ブランディングの知識・理解を深める。実際に、ブランディングを行い今後のスポーツビジネスの現場においての創造力や発信力の広報スキルを身に付ける。				
到達目標	物・事・人の見せ方について、自分なりの考え（創造力・表現力）を持ち、人に伝えることができる。				
テキスト・参考図書等	必要に応じて資料配布				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験		授業内で課す提出物(課題・計画案等)や小テスト(知識確認等)の結果およびその他(出席状況、受講態度等)を総合的に評価する。		
	レポート				
	小テスト	20			
	提出物	60			
その他	20				
履修上の留意事項	将来、進む業界での必要スキルです。前向きな姿勢で積極的に授業参加してください。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	最終到達目標、授業の進め方について		
	2	ブランディングの基礎	ブランディングとは何か、役割、事例を学ぶ(リサーチも含む)		
	3	ブランディングの基礎	ブランディングの方法や知識について理解を深める		
	4	ブランドの決定	グループワーク (ターゲット分析、実施計画)		
	5	ブランドの決定	グループワーク (ターゲット分析、実施計画)		
	6	ブランドの見せ方を考える	グループワーク (具体的な発信内容の準備等)		
	7	ブランドの見せ方を考える	グループワーク (具体的な発信内容の準備等)		
	8	グループ発表	計画案の発表・ディスカッション		
	9	実践前確認	内容、発信スケジュール等について確認・修正		
	10	ブランディング実践	実践、分析、調整		
	11	ブランディング実践	実践、分析、調整		
	12	ブランディング実践	実践、分析、調整		
	13	ブランディング実践	実践、分析、調整		
	14	振り返り・まとめ	ブランディング効果、グループ・個人について振り返る		
	15	振り返り・まとめ	ブランディング効果、グループ・個人について振り返る		
	16	ブランドの決定	グループワーク (ターゲット分析、実施計画)		
	17	ブランドの決定	グループワーク (ターゲット分析、実施計画)		
	18	ブランドの決定	グループワーク (ターゲット分析、実施計画)		
	19	ブランドの見せ方を考える	グループワーク (具体的な発信内容の準備等)		
20	ブランドの見せ方を考える	グループワーク (具体的な発信内容の準備等)			

21	ブランドの見せ方を考える	グループワーク (具体的な発信内容の準備等)
22	グループ発表	計画案の発表・ディスカッション
23	ブランディング実践	実践、分析、調整
24	ブランディング実践	実践、分析、調整
25	ブランディング実践	実践、分析、調整
26	ブランディング実践	実践、分析、調整
27	振り返り・まとめ	ブランディング効果、グループ振り返り、資料作成
28	振り返り・まとめ	ブランディング効果、グループ振り返り、資料作成
29	グループ発表	計画案の発表・ディスカッション
30	1年間のまとめ	グループ・個人振り返り

授業科目	アウトドア実習〔SB2〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期	2年・集中		必修・選択区分	選択	単位数
授業形態			授業回数		時間数
授業目的	アウトドアについての基本的な知識・技術を身につける、体験活動やグループワークを通して実際に体感し、自身や他者とのコミュニケーションスキルを身につけることを目的にする。				
到達目標	アウトドア活動について理解することができる 体験活動等を実際に行い、他者とのコミュニケーションに積極的に取り組むことができる				
テキスト・参考図書等					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	0	授業内でレポート、その他出席状況や授業態度等を総合的に評価する。		
	レポート	50			
	小テスト	0			
	提出物	20			
その他	30				
履修上の留意事項	知識・技術を身に付け、実際にアウトドア体験することで楽しさ、素晴らしさを学びましょう。				
履修主題・履修内容	回	履修主題	履修内容		
	1	オリエンテーション	アウトドアとはなにかを学ぶ		
	2	アウトドアについて知る	アウトドアについて知識理解を深める		
	3	コミュニケーションワーク	アウトドアでのコミュニケーションの大切さを学ぶ		
	4	リスクマネジメント	アウトドアでのリスクマネジメントを学ぶ		
	5	アウトドア実践	実際に体験し、アウトドアをより理解する		
	6	アウトドア実践	実際に体験し、アウトドアをより理解する		
	7	アウトドア実践	実際に体験し、アウトドアをより理解する		
	8	アウトドア実践	実際に体験し、アウトドアをより理解する		
	9	アウトドア実践	実際に体験し、アウトドアをより理解する		
	10	アウトドア実践	実際に体験し、アウトドアをより理解する		
	11	アウトドア実践	実際に体験し、アウトドアをより理解する		
	12	アウトドア実践	実際に体験し、アウトドアをより理解する		
	13	アウトドア実践	実際に体験し、アウトドアをより理解する		
	14	まとめ	アウトドア体験をしたことについてまとめる		
15	まとめ・発表	アウトドア体験した内容をまとめ、発表する			

授業科目	イベント企画・運営実習 〔SB2〕		担当教員	小笠原 鷹介	
対象年次・学期		必修・選択区分		単位数	
授業形態		授業回数		時間数	
授業目的					
到達目標					
テキスト・ 参考図書等					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験				
	レポート	60			
	小テスト				
	提出物	20			
履修上の 留意事項					
履修主題・ 履修内容	回	履修主題	履修内容		

